

発行日 令和8年7月15日

紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（7月）



最新の出没情報は紫波町公式LINEにて配信しています。

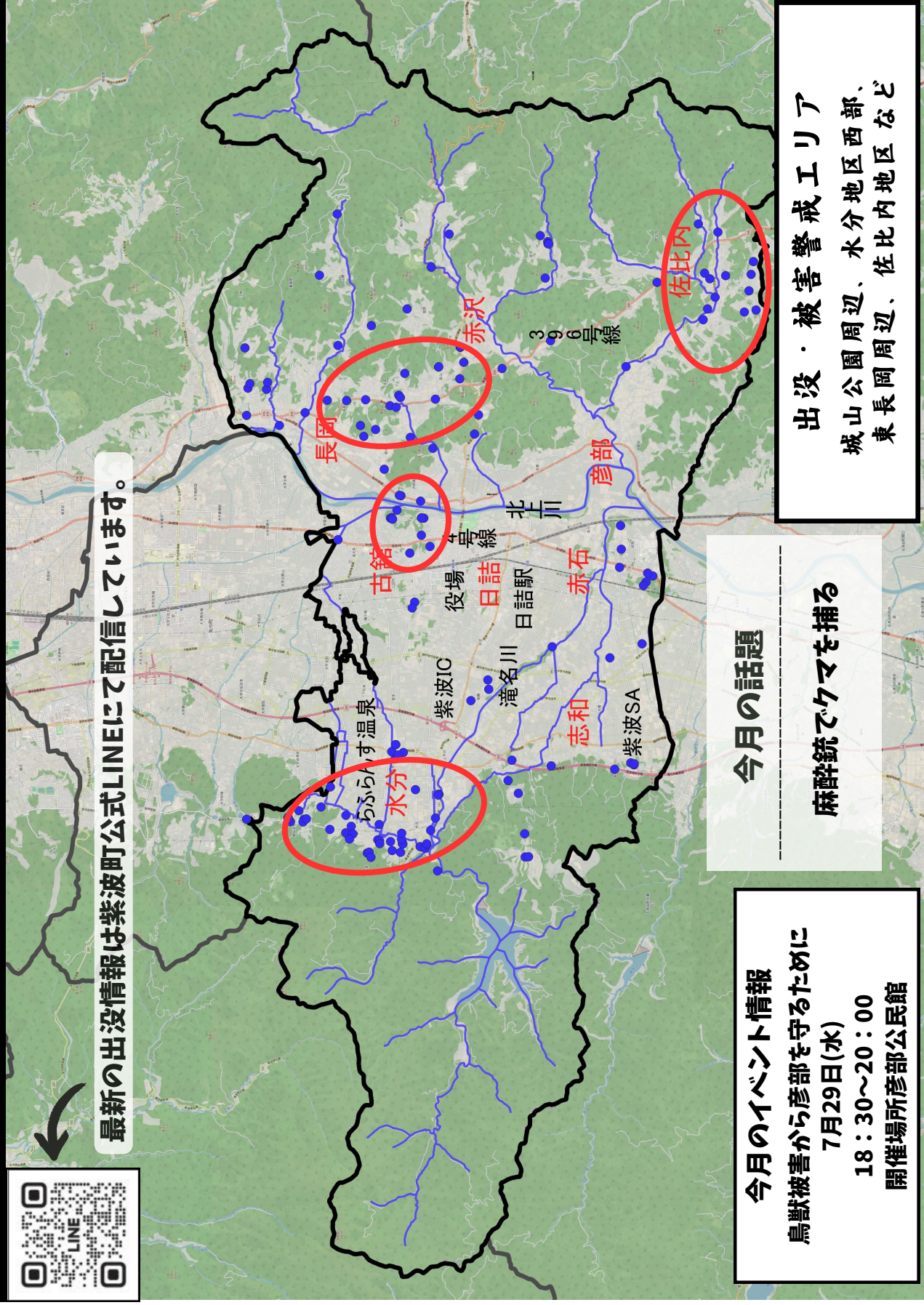
紫波クマ通信

16号

発行

2026年7月15日

紫波町環境課
地域おこし協力隊
近藤雄太



今月の話題

麻酔銃でクマを捕る

今月のイベント情報

鳥獣被害から彦部を守るために

7月29日(水)

18:30～20:00

開催場所彦部公民館

出没・被害警戒エリア

城山公園周辺、水分地区西部、
東長岡周辺、佐比内地区など

7月のクマ情報

6月中は紫波中央駅から日詰駅にかけての中心部でクマの目撃が相次ぎました。7月に入ってからには出沒が落ち着いてまいりましたが、一度出た場所には再びクマがやって来ることも多いため、今後も注意が必要です。特に、今年度は紫波町だけに限らず全国的に町中へ出沒するクマが目立っており、紫波町内でクマの出沒しない場所はないということを念頭に置いていただければ幸いです。

7月になると東側の地域では桃、西側の地域ではキュウリの被害が始められてまいります。クマは一度執着するとその食べ物に居つくことになり、被害を受けた際には速やかに役場へ連絡をすることを心がけていただきたいと思います。

6月から引き続いて7月もクマの発情期であるため、クマの行動範囲は広くなる傾向にあります。また、サクラやクワの実、野イチゴの実も時期を終えてまいりますので、人里の食べ物を目当てに出沒するクマも増えてくる時期にあたります。最近の若いクマは人に慣れてきていることもあり、人の生活圏へも躊躇わずに出てくることも少なくありません。

罠の設置などによる捕獲活動も進めておりますが、それだけで出沒をゼロにできるわけではありませんので、町の公式LINEなどを活用して出沒情報を確認し、人身被害の防止に努めていただきますようお願いいたします。



今年の秋のクマ情勢は？

先日、今年度の東北地方（福島県を除く）のブナの豊凶予測が発表された。青森県以外の4県（岩手県も含む）では豊作、青森県では並作と近年では最も実りの良い年になる可能性もある結果だ。

ブナやドングリの実りの悪い年には秋のクマの出沒が多くなる、逆に実りの良い年には秋のクマの出沒は少なくなる、これは過去のクマの出沒データからも明らかになっている事実である。それなら、今年度の秋はクマの被害の心配をしなくてよいのかといわれれば、そういうわけでもない。

今年度に入ってからそうだが、近年クマの市街地への出沒が急速に進んでいる。その背景には、人口減少などによりクマが市街地へとやってきやすい環境ができていくこと、クマは一度餌を食べた場所を覚えて再びやって来る性質があることなどが関係していると考えられる。

昨年度は非常に実りの悪い年であったため、秋以降のクマの出沒、特に市街地での出沒が非常に多くあった。つまり、昨年の秋で多くのクマが市街地にも食べるものがあるということを学習している可能性があるということだ。

今年度の秋は昨年度と比べればクマの出沒が少なくなる可能性はある。しかし、市街地で餌を食べることを覚えたクマが再び市街地へと餌を求めてやってくる可能性も十分にありえるといえよう。



麻酔銃でクマを捕る



紫波町でも先月にあつたような町中でのクマの出沒に対して、盛岡市や宇都宮市など麻酔銃を使用しての捕獲を行ったと例がある。では、実際に麻酔銃によるクマの捕獲というのは有効な手段となりえるのだろうか？

まず、麻酔銃が町中でのクマの出沒に際して使用される理由だが、人や人家が多く通常の銃弾では跳弾（弾が固い地面などにぶつかって意図しない方向へ飛んでいくこと）などのリスクが非常に高いということがあげられる。それだけを聞けば十分に有効な手段であるように思えるが、麻酔銃の運用の難しさには別の側面がある。

第一に、麻酔銃は扱える人が非常に少ないということ。実際、麻酔銃の扱いができる人が現場にくるまで数時間を要することは珍しくないため、その間クマが逃げずにとどまっている状況が必要となる。

次に、麻酔銃が当たったからといってすぐに動かなくなるわけではないということ。麻酔が効いて動かなくなるまで通常5〜10分ほどかかる。当たり所やクマの状態によっては春にあつた福島市の例のように効かないこともある。麻酔が当たった直後には余計に興奮してしまうリスクもあり、反撃してくる可能性も考慮して対処しなければならない。

通常の銃弾よりもリスクが少なく扱いやすいように思われがちな麻酔銃だが、実際にはこれらのことからわかるようにクマがひとところにとどまり続けている状況の確保や周辺の一般住民への避難誘導を行い安全確保をすることなど多くの手間を要することとなる。

通常の銃が使えない状況における最終手段として期待される麻酔銃だが、その運用が決して簡単なものではないということも十分に理解しておかなければならない。

